

# 東浦のチカラ vol.22

ちょっと話題の町出身・町内で活躍している方を  
住民自治課で発掘し、2か月に1回紹介します！

# 岡本泰斎さん



# ラグビー選手



## プロフィール

片倉小、東浦中を経て、中部大学春日丘高校で全国大会へ出場。ラグビーの強豪である帝京大学に進学し、3・4年のとき大学選手権で日本一に輝く。現在は、ラグビーのリーグワン「豊田自動織機シャトルズ愛知」で活躍中。



昨年「県民の日学校 ホリデー」の一環で豊田自動織機シャトルズ 愛知の選手とラグビー を体験するイベントが 実施された。ラグビー ボールに初めて触れる 子どもたちの輪の中に、 岡本さんの姿があった。 「ラグビー始めたの は、父がラグビースクー ルのコーチを始めた関 係で、5歳から連れられ て行ったのがきっかけで す。最初は、人と体をぶ つけ合う(タックルなど) のが怖くて、好きになれ ませんでした。小学生 になると、少年野球チー ムに所属し、友だちと練 習に行くのが楽しく、ラ グビーよりも野球に夢 中でした」と笑う。しか し、父の影響もあったた め、ラグビーは続けてい た岡本さん。

大学では日本も経験。しかし、競技人生は甘くなかった。「大学

続けたい」と考えるようになつた。「最初は野球の道も考えていたのですが、競技人口が多い野球より、ラグビーの方が活躍していくのではと考え、ラグビーの道に進むことにしました。

になり、ラグビーにのめり込むようになりました。今では、タックルなどの体をぶつけたプレーが一番得意です」と話す。中学生の頃から漠然と「」の先もラグビーを

我が治るべ「ワゴン」をやりたい気持ちが無性に湧き出できて。その気持ちをエネルギーに変えて、プレーにぶつけました。すると、着手だつたタックルもできぬよう

なゼラグビーに熱中するようになったのか、「きっかけは中学生の時の怪我。一時期ラグビーができませんでした。ラグビーができないストレスを感じていたのか、怪

「頑張りますので、応援よろしくお願いします！」

いた。「自分より大きな選手にタックルして、倒した時はうれしいし、良いプレーをしたとき15人のメンバーと喜びあえるところが最大の魅力。将来はチームを代表する選手になれる

『負けたくない。一番になりたい』という気持ちは常にあつたから、少しづつ練習も頑張り続けることができたと田畠さんは振り返る。

時代は、練習についていくのに必死すぎて、あまり覚えていない。  
今まで所属したどのチームにも、自分より強い選手がいて、自分が一番の選手だと思って

